

戰訓特報第十四號

艇隊(大發)ヲ以テスル對魚雷艇戰闘要領

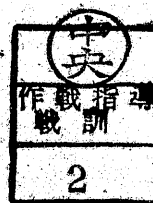
P/MIRS

MR-45

(D.65)

#1027

昭和十九年一月一日
大本營陸軍部



933
0-0

0305

本資料ハ猛集團野崎船舶工兵部隊ヨリ送付セラレタルモノナリ

0306

目次

通則

第一 戦闘ノ爲ノ諸準備

第二 航行

第三 戦闘

七
九
一

附圖

第一 大型魚雷艇略圖

第二 小型魚雷艇遠影圖

第三 其ノ一 速射砲、機關砲、重機關銃射撃設備要領

其ノ二 二〇糎機關砲艇首射撃設備要領

其ノ三 四〇糎對戰車砲射撃設備要領

0307

第四 其ノ一 艇内艇員砲手配置圖

其ノ二 二〇耗機關砲、四〇耗速射砲射手配置圖

第五 敵魚雷艇陸岸ヨリ攻撃シ來リ我兩舷戰闘ノ不利ニ陥リシ戰例

第六 岬(島嶼灣入部)通過時ノ隊形

第七 見張配置要圖

第八 海上ニ於テ各艇連絡ノ爲火光信號ヲ使用セル爲敵魚雷艇ノ攻撃ヲ受ケタル戰例

第九 敵ト不意ニ遭遇シ機先ヲ制シテ射撃ヲ開始シ敵ヲ撃沈シタル戰例

第十 地形ヲ利用シテ待機シ敵ヲ奇襲シテ戰果ヲ擧ゲシ戰例

第十一 敵ト不意ニ遭遇シ混戰亂闘ニ陥リシ戰例

第十二 敵ニ挾撃セラレタル戰例

第十三 我ニ火砲ノ裝備ナカリシ爲殲滅的打撃ヲ受ケシ戰例

附 錄

對魚雷艇戰闘地點全般圖

0308

艇隊(大發)ヲ以テスル對魚雷艇戰鬪要領

通 則

- 一、本要領ハ聯隊ガ現裝備、現舟艇ヲ以テ當面ノ任務達成ノ爲採ルベキ手段方法ヲ明示スル爲作製セシモノニシテ狀況ニ應ジ一層創意工夫、研究改善ニ努ムベキモノトス
- 二、優勢ナル火器ト快速トヲ有スル敵魚雷艇ニ對シ臨機應急ニ山砲、速射砲、機關砲、自動砲及機關銃ヲ裝備セル大發動艇而モ射擊訓練ノ餘裕ナキ砲手ヲ以テ必中以テ敵魚雷艇ノ撃沈ヲ期セントスルハ至難ノコトニ屬スト雖モ勇敢、沈著、剛膽、堅忍ノ烈々タル攻撃精神ハ機智ニ富ム巧妙ナル艇隊(艇)長ノ指揮トナリ沈著好機ニ投ズル火力ノ集中發揮トナリ能ク砲艇一體ノ威力ヲ發揮シ奇襲的效果ヲ舉ゲ得ルモノトス
- 三、敵魚雷艇ノ慣用戰法及ソノ行動ヲ熟知シ常ニ機先ヲ制シテ敵ノ意表ニ出ヅル如ク行動スルハ戰勝ノ要訣ナリ之ガ爲海岸ノ狀況特ニ岬角、石花礁、陸上背後ノ地形、明暗

0309

ノ度、海象等ノ狀況ニ應ジ航路、航行隊形、速力等ノ選定ヲ適切ニシテ勇敢剛膽ニ潛行シ敵ノ豫期セザル地點ニ待機シテ戰鬪隊形ヲ整ヘ敵ヲ奇襲スルニ努ムルヲ要ス假令不意ニ敵ニ遭遇シタル場合ニ於テモ各艇ハ獨斷ヲ以テ先制ノ優位ヲ保持シ敵ニ先ンジ射撃ヲ開始シ得ル如ク平素ヨリ各種對魚雷艇戰鬪要領ニ慣熟シアルヲ要ス

四、敵魚雷艇ハソノ快速ヲ利用シ我ガ艇隊ノ周圍或ハ一側ヲ反復快走シツツ優勢ナル火力ヲ瞬時ニ我ニ集中シ或ハ一部ヲ以テ前方及後方ニ迂回シ我ヲ包圍シツツ我ガ艇隊ヲ混亂ニ陷ラシメ各個擊破ノ舉ニ出デ或ハ我ヲ猛射シタル後我ノ射程外ニ退避スル如ク裝ヒ再度機會ヲ看テ反復攻撃シ來リ或ハ我ガ艇隊ヲ發見スルヤ遠ク迂回シテ攻撃ニ有利ナル要點(岬角、島蔭)ニ先行待機シ時トシテ豫メ我ノ必ズ通過スルヲ豫想スル地點ニ日没後ヨリ待機シ我ヲ急襲スル等ソノ行動端倪ヲ許サズ眞ニ神出鬼没ナルコトヲ肝銘シアルヲ要ス

五、敵魚雷艇ハ全速ヲ以テ我ニ近接シタル瞬間ニ發射速度大ナル連裝機關砲ヲ以テ急襲的ニ猛射シ來ルモノニシテ若シ此ノ際敵ニ機先ヲ制セラレシカ我ハ遂ニ應射ノ機ヲ失

シ寸秒ニシテ各艇數十發ノ彈痕ヲ蒙リ殲滅的損傷ヲ受ケタルコト少カラズ近距離（概
ネ五〇〇米以内）戰鬪ハ我ガ火炮ノ方向移動性小ナルト舟艇ノ迅速ナル方向變換困難
ナルトニ鑑ミ努メテ之ヲ避クルヲ要ス各艇ハ警戒ヲ嚴ニシ監視ヲ周密ニシテ常ニ敵ヲ
近距離外ニ於テ攻撃スベシ

六、艇隊ヲ以テスル對魚雷艇戰鬪ニ於テハ戰鬪開始地點ノ良否ガ戰鬪ノ勝敗ニ影響ヲ及
スコト甚大ナリ故ニ常ニ戰場ハ我ガ射撃ニ便ナル如ク敵影ノ發見捕捉容易而モ敵ノ我
ガ舟艇確認困難ニシテ行動亦不便ナル地點ニ主動的ニ選定スルコト緊要ナリ之ガ爲海
岸灣入部、岬角、島嶼等ヲ有利ニ利用シ背後ノ地形ニ依リ我ガ艇位ヲ祕匿シ恰モ虎ノ岬
ヲ負フガ如ク敵ノ我ガ側方背後ニ迂回潛入シ得ザル海岸ニ於テ交戦スルヲ有利トス

七、舟艇ノ武裝特ニ射撃設備ノ適否竝ニ艇長、舵手、砲手ノ防護設備ノ良否ハ我ガ射撃
威力ノ發揮ニ重大ナル影響ヲ及スモノナルヲ以テ常ニ有ユル手段ヲ講ジ萬難ヲ排シテ
之ガ完備ニ努ムルヲ要ス

八、敵魚雷艇ハ大型（附圖第一）、小型（附圖第二）ノ二種アリ共ニ木造ニシテ機關ハ「ガ

0311

ソリンエンジンナルモノノ如ク我方射彈ニ依ル引火炎上容易ナリ艇上ハ何等裝甲ナ
キモノノ如シ

其ノ性能概ネ左ノ如シ

大型魚雷艇

艇 長 三十乃至四十米

艇 幅 四乃至五米

舷 高 一・五乃至二米

備 砲 四〇耗速射砲、一三耗機關砲(二連裝二、一連裝一)七・七耗機關銃二連裝

一、魚雷發射管二、爆雷二(數箇搭載セルモノアリ)

無線裝置 有(アンテナ用ノ柱アリ)

探照燈 小型一

聽音機 有スルモノノ如シ

精良ナル夜間眼鏡ヲ有ス

小型魚雷艇

艇 長 二〇乃至二五米

艇 幅 三乃至四米

舷 高 一乃至一・五米

備 砲 一三耗機關砲(二連裝二)、七・七耗機關銃二

無線裝置 有ス

魚雷發射管 一乃至二

聽 音 機 有スルモノノ如シ

精良ナル夜間眼鏡ヲ有ス

九、敵魚雷艇ハ一般ニ我ガ大發ヨリハ大型ナルト機關ノ爆音大ナル爲之ガ發見困難ナラズト雖モ敵ハ無線ニ依リ飛行機又ハ監視哨等ト連絡シ我ガ行動ヲ探知シアルノミナラズ航行間或ハ聽音機ヲ以テ我ガ爆音ヲ聽取シ或ハ屢々機關ヲ停止シ又ハ消音低速ヲ以テ航行シ索敵ニ努ムルヲ以テ敵魚雷艇監視ニ方リテハ我モ亦適時地形、陰影ヲ利用シ

時々機關ヲ停止シ爆音ヲ聴取シ兆候ヲ判斷スル等常ニ敵ニ先ンジ敵艇ヲ發見スルコト
ニ努ムルゴト緊要ナリ此ノ際夜間眼鏡ヲ使用スルヲ得バ敵ニ先ンジテ之ヲ發見スルコ
ト容易ナリ

一〇、敵魚雷艇ハ通常二乃至三隻ノ艇隊ヲ以テ行動スルモ戰鬪ニ方リテハソノ快速ヲ利用シテ
止分散シ各艇毎用シ直チニ行動スルヲ常トス而シテ之ガ相互ノ連絡ハ無線及火光通信
ニ依ルモノノ如シ火光通信ノ記號ハ既往戰鬪ノ經驗ヨリ判斷スルニ概ネ左記ニ依ルモ
ノノ如シ

敵發見

青燈

攻撃開始(散開)

青燈

—— 連絡(信號燈)

集合

青色ノ吊星(煙火打上)

救難(助)

赤色ノ吊星(煙火打上)

一一、夜間射撃ハ彼我共ニ彈道高キニ失スルハ戰場ノ常ナリ戰場心理ノ然ラシムルトコ
ロナルベシト雖モ波浪ニ依ル舟艇ノ動搖、射撃設備ノ不備、照準ノ困難、砲手ノ未熟

0314

等ニ基因スルコト少カラザルヲ以テ暗夜高波浪時ニ於ケル射撃操作特ニ迅速確實ナル
照準動作ハ特ニ意ヲ用ヒテ訓練スルノ要アリ

第一 戦闘ノ爲ノ諸準備

一、舟艇武裝用火砲ハ附圖第三ノ如ク設備スルモノトス

二、武裝用火砲竝ニ砲手、艇員防護ノ爲土囊若クハ空「ドラム」罐（土砂ヲ入レル）ヲ以テ
設備スルヲ要ス材料ナキ場合ハ輸送用糧秣ヲ應用スルヲ可トス（附圖第三参照）

三、護衛火砲射手ハ臨時配屬ノ者ニ在リテハ高波浪時ニ於テモ其ノ射撃ニ遺憾ナキ如ク
航行間訓練ヲ反復セシムルヲ要ス又自隊人員ヲ以テ豫メ射手要員ヲ教育シ適時砲手ノ
不足ヲ補ヒ得ル如ク準備スルコト必要ナリ

四、機關整備ニハ特ニ意ヲ用ヒ爲シ得ル限り豫備部品ヲ携行セシメ不調ノモノハ豫メ良
好ノモノト取換フル等艇隊長、艇長ニ於テ必ズ點檢現状ヲ確認シ置クラ要ス

五、艇隊ノ編成ニ方リテハ作戰上ノ要求ニ應ジテ決定スルモ最小限四隻ヲ以テ一艇隊ト

スルヲ要ス

六、艇隊火炮ノ配備ニ方リテハ速射砲(山砲)ト機關砲、自動火器トノ配合ヲ適切ナラシ
メ近接戰鬪ヲ惹起セシ場合ニ於テモ多數彈ヲ瞬時ニ發射シ得ル如クスルヲ要ス指揮艇
ニハ發射速度大ナル火炮及機關銃ヲ成ルベク多ク裝備スルヲ有利トス又狀況之ヲ許ス
場合ニ於テハ艇尾ニモ火炮又ハ機關銃ヲ設備スルヲ可トス
背後ヨリ敵ノ攻撃ヲ受クル虞アル場合及最後尾ノ舟艇ニ於テ特ニ然リ

七、艇内砲手艇員ノ配置ハ附圖第四ノ如シ

八、各艇ハ彈痕填塞、曳航、消火等ノ爲諸材料ノ整備ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

九、出發前迄ニ火炮、機關銃ノ點檢手入ヲ實施シソノ結果ハ必ズ艇長ニ報告セシムル如
ク規定シ置クヲ要ス

一〇、乗艇部隊アルトキハ努メテソノ携行セル火器ヲ臨時艇上ニ設備シ戰鬪ニ協力スル
如ク協定スルト共ニ對魚雷艇(空)監視兵ノ配置、戰鬪(射擊)指揮其ノ他ニ關シ綿密ナ
ル協定ヲ實施シ之ガ徹底ヲ期スルヲ要ス

0316

第二航行

一、艇隊長(艇長)以下艇員ハ常ニ航路、地形特ニ暗礁洲、石花礁ノ狀況其ノ他海象ヲ研究暗識シ置クコト緊要ナリ

二、艇隊航行間兩舷戰鬥ヲ惹起シ或ハ陸岸方向ヨリ敵ノ攻撃ヲ受クルハ最モ不利トスルトコロナリ之ガ爲極端ナル接岸航行ヲ敢行スルヲ要ス(附圖第五參照)

三、艇隊ハ狀況ノ許ス限リ一列縱隊ヲ以テ航行シ各艇ノ距離ハ明暗ノ度ニ依リ一定シ難キモ直チニ戰鬥隊形ニ移ル爲ニハ少クモ五十米以上ナラシムルヲ適當トス此ノ場合艇隊ノ指揮掌握困難ナルヲ以テ各艇間ノ規約信號ヲ徹底セシメ置クコト肝要ナリ

四、岬、島嶼、灣入部通過ニ方リテハ敵魚雷艇ト遭遇ノ公算最モ大ナルヲ以テ特ニ警戒ヲ嚴ニシ徵候ニ注意シ要スレバ微速航行又ハ航行ヲ一時中止シテ指揮艇ノミ先行候敵ノ後前進ヲ續行シ或ハ二番艇以下ヲ逐次横隊トナシ一舉ニ全火力ヲ集中發揮シ得ル如キ隊形ニテ速力ニ進出スル等艇隊ノ指揮掌握ヲ特ニ敏速的確ナラシムルヲ要ス(附圖

第六參照

五、敵ニ先ダチテ敵影ヲ發見スルハ勝利ノ第一歩ナルニ鑑ミ艇員ハ全力ヲ以テ海上見張
ニ任ズルト共ニ乗艇部隊アル中ハソノ指揮官ニ要求シ爲シ得ル限リ監視兵ヲ立哨セシ
ムルヲ要ス見張ノ爲夜間眼鏡ヲ使用シ得バ極メテ有利ナリ見張配置要領附圖第七ノ如
シ

六、裝備セル各火炮、機關銃ハ出港後直チニ射撃準備ヲ完了シ適時射撃ヲ開始シ得ルノ
姿勢ニ在ラシムルヲ要ス火器、彈藥ノ機能點檢、射手ノ訓練等ノ爲必要トスル場合ハ
出港後適時數發ノ試射ヲ行ハシムルヲ要ス

七、艇隊長ハ出港ニ先ダチ艇長以下全員ヲ集メ敵魚雷艇ニ對スル最新情報、航路隊形、
戰鬪要領特ニ射撃開始ノ時機、各艇間ノ連絡要領、遭難對策等ヲ明示徹底セシメ常ニ
必勝ノ信念ヲ鼓吹シ旺盛ナル攻撃精神ヲ充溢セシメ置クヲ要ス

八、二艇隊以上行動ヲ共ニスル場合ニ於テハ各艇隊長ハ出發前ニ密ニ協定ヲ實施シ能ク
全火力ノ集中發射竝ニ友軍相撃ノ防止ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

九、航行間火光ノ使用ヲ絶對ニ禁止スルヲ要ス航行間各艇火光信號ヲ使用シタル爲敵魚雷艇ニ發見セラレ殲滅的損傷ヲ受ケタルコトアリ(附圖第八參照)

一〇、航行間適時敵魚雷艇ノ情報ヲ入手スル爲沿岸警備部隊ニ於テ敵ノ待機スベキ要點附近ニ警戒部隊ヲ配置シアラバ艇隊ハ之ト連絡スルヲ有利トス尙爲シ得レバ此ノ警備部隊ニ近接スル敵魚雷艇ノ撃退ヲ要求スルヲ可トスルモ警備部隊ハ敵ノ報復射撃及翌朝ノ飛行機ノ爆撃ヲ顧慮シ單ニ監視スルノミニテ射撃セザルヲ一般トスルヲ以テ艇隊ハ常ニ斷乎トシテ機動ヲ敢行スルノ概ヲカルベカラズ

第三 戰 闘

一、戰闘ニ際シテハ機先ヲ制シ敵ニ火力ヲ集中シ初弾ニ於テ敵ヲ撃沈(破)スルヲ要ス縦ヒ所期ノ火力成果ヲ擧ゲ得ザル場合ニ於テモ斷乎トシテ敵ニ猛射ヲ浴ビセ敵ノ心膽ヲ奪ヒ戰意ヲ失ハシムルヲ要ス

二、戰闘間艇隊ノ指揮ヲ便ナラシムル爲僚艇制度ヲ確立シ置クヲ要ス之ガ爲四艇ノ場合

0319

ハ二艇ヲ以テ一組トシ艇隊長ハ全艇ヲ指揮スルト共ニ前部二艇ヲ直接指揮シ先任下士官ヲシテ後部二艇ヲ指揮セシムルヲ可トス

三、艇隊戦闘開始後ニ於テハ艇隊長ノ統一指揮極メテ困難ナルヲ以テ各艇隊長以下ハ獨斷戦闘(射撃)ヲ敢行シ獨力以テ敵ヲ撃退スル旺盛ナル攻撃精神ト必勝ノ信念ヲ堅持シアルコト緊要ナリ

四、彼我相互ニ發見セシ場合ニ於テハ指揮艇ハ直チニ射撃ヲ開始シ各艇ハ豫メ命ゼラレアルトコロニ從ヒ速カニ戦闘隊形ヲ整ヘツツ迅速ニ戦闘ニ加入シ敵ヲ猛射シ終始攻勢ノ態勢ヲ保持シ敵ヲ近接セシメザル如ク戦闘ヲ敢行スルヲ要ス(附圖第九參照)

五、敵ヲ發見シ敵我ヲ察知セザル場合ニ於テハ艇隊長ハ交戦ノ利害ヲ速カニ判斷シ攻撃ヲ決心セバ直チニ戦闘隊形ニ移ラシメ各艇ハ微速前進後進或ハ停止ニ依リ敏活隱密ニ配置ニツキ敵ノ我が有効射程内ニ進入シ來ルヲ待チ豫メ規定セル艇隊長ノ射撃開始ノ指示ニ基キ各艇一齊ニ急襲的射撃ヲ開始シ初彈ニ於テ敵魚雷艇ヲ撃沈スル如ク努ムルコト緊要ナリ(附圖第十參照)

六、艇隊敵ト不意ニ遭遇シタル場合ニ於テハ機先ヲ制シ直チニ猛射ヲ開始シ敵ノ驀進近接ヲ防止シ得バ爾後ノ戦闘指導容易ナリ之ニ反シ躊躇逡巡徒ラニ遮蔽退避シ海岸ニ達著セントスルトキハ遂ニハ敵ノ集中猛火ヲ浴ビ應射ノ自由ヲ失ヒ殲滅的打撃ヲ受クルニ至ルモノトス嚴ニ戒心セザルベカラズ敵前(後)方ヨリ不意ニ攻撃シ來ル場合ニ於テハ通常指揮艇(後尾艇)先ヅ攻撃ヲ受クルヲ以テ他艇ハ速カニ獨斷ヲ以テ戦闘ニ加入シ敵ニ猛射ヲ集中スルヲ要ス(附圖第十一參照)

七、不意ニ敵ヨリ挾撃セラレタル場合ニ於テハ各艇ハ全速ヲ以テ戦闘隊形ヲ整フルト共ニ一、二番艇ハ前方魚雷艇ヲ三、四番艇ハ先ヅ艤部ノ火器ヲ以テ後方魚雷艇ト交戦スルト共ニ速カニ戦闘隊形ヲ整ヘ近接シ來ル敵ヲ攻撃スルヲ要ス斯克ノ如キ狀況ハ最モ不利ナル戦闘ナルニツキ各艇ハ常々見張ヲ嚴重ナラシメ敵ニ乗ゼラレザル如ク注意スルト共ニ如何ナル場合ニ於テモ艇首ヲ敵方ニ保持シテ射撃ヲ連續シ退避、達著等ノ消極的行動ニ陷ラザルコト緊要ナリ敵ト遭遇シタルトキ旺盛ナル攻撃精神ヲ缺キ海岸石花礁等ニ達著セントシ廻頭シタル爲我ガ射撃ノ自由ヲ失ヒ殲滅的打撃ヲ受ケタルモノ

少カラズ戒心ヲ要ス尙既往ノ苦キ經驗ニ依レバ敵ハ我ノ射撃停止後ニ於テハ之ヲ撃沈スルカ炎上セシムル迄ハ彈藥ノ浪費ヲ意トセズ極メテ執拗ニ射撃ヲ反復スルヲ常トス
(附圖第十二參照)

八、快速ナル敵魚雷艇ニ對シテ他ニ手段ナク而モ確實ニ衝突ノ公算アル場合ノ外無謀ナル體當リ戰法ヲ濫用スルハ却ツテ敵ノ爲殲滅的射撃ヲ蒙ルモノトス

九、對魚雷艇射撃ノ要ハ先制ヲ以テ短時間ニ多數ノ有效射彈ヲ發射スルニアリ而シテ艇上射撃ハソノ特性上訓練教育ノ暇少キヲ以テ艇隊長分隊長ハ寸暇ヲ求メテ之ガ訓練向上ヲ圖ルヲ要ス

一〇、艇上射撃ニ於テハ艇員、砲手眞ニ一體トナリ迅速適切ナル舟艇操縱技能ト適切巧妙ナル射撃指揮竝ニ精熟セル射撃動作ニ依リテノミ始メテ效果ヲ發揮シ得ルモノニシテ效果ナキ射撃ハ徒ラニ彈藥ヲ浪費シ却ツテ敵ノ輕侮ヲ招クノミナラズ艇隊ヲシテ危殆ニ陷ラシムルモノナルコトヲ肝銘スベシ

一一、對魚雷艇射撃ニ於テハ射線ノ固定ヲ緊要トス之ガ爲艇長ハ左ノ要領ニ依リ艇ヲ敵

ニ正對セシメ射線ヲ固定ス

〔左(右)舷○○度魚雷艇取(面)舵〕

舵手、機關手ハ迅速ナル操作ニ依リ艇ヲ所命ノ方向ニ變針、砲分隊長ハ艇ガ概ネ射線ニ入ラバ艇長ニ「良シ」ト連絡シ艇長ハ爾後敵ニ對シ絶エズ射線ノ固定ニ努ム

一二、射撃間ハ常ニ艇首ヲ敵魚雷艇ノ方向ニ保持シ火砲ノ照準ヲ迅速ナラシムルハ艇長、舵手ノ重大ナル責務ニシテ砲艇一體ハ敵艇擊沈ノ要訣ナリ彈雨ノ間毅然トシテ配置ニ就キ風浪ト闘ヒツツ艇ヲ操舵シ快速ヲ以テ移動スル敵艇ノ方向ニ終始艇首ヲ保持スルノ困難ヲ制御シ得テ始メテ戰勝ノ端緒ヲ開キ得ルモノトス

一三、魚雷艇ニ對スル照準點(表尺)ハ常ニ八〇〇ヲ採用近距離ニ入ラバ五〇〇トスハ通常停止セル場合ハ中央下際、移動中ハソノ先端下際トスルモ「待撃チ」ノ場合ニ於テハ約一艇身前方ニ照準線ヲ指向シ魚雷艇ノ前端照準線ニ達シタル瞬間發射スルモノトス
夜間ハ照準點ハ過高トナルヲ以テ寧ろ過低トナル如ク選定セシムルヲ有利トス

一四、照準ハ狀況ニ依リテハ概略照準ニ依ルヲ有利トスルコト少カラズ此ノ際分隊長ハ

速カニ射手ニ概略ノ照準ヲ教示スルモノトス

一五、發射時機ノ選定ハ射手ニ於テ之ヲ爲スモノトス敵彈雨飛ノ間ニ於テモ沈著的確ニ其ノ時機ヲ選定シ得ル如ク訓練スルヲ要ス

暗夜ニシテ眼鏡照準具ニ依リ目標ヲ捕捉シ得ザル場合ニ於テハ艇下降時水平ニナリタル時機ニ於テ低進彈道ヲ以テ發射スルヲ可トス

一六、射撃ハ數發急襲的ニ實施シ彈著ノ狀況特ニ之ヲ要スレバ果斷ナル修正ヲ行ヒ更ニ連續射撃ヲ反復スルヲ要ス

實戰ノ結果ニ依レバ當初ヨリ確實ニ近彈ヲ以テ發射シ第二彈道ノ效果ヲ發揮スルヲ有利トスルコト多シ

一七、敵魚雷艇ハ先頭ノ二隻ハ約一〇〇米、第三番艇ハ約一、〇〇〇米ノ距離ヲ以テ前進スルモノノ如シ

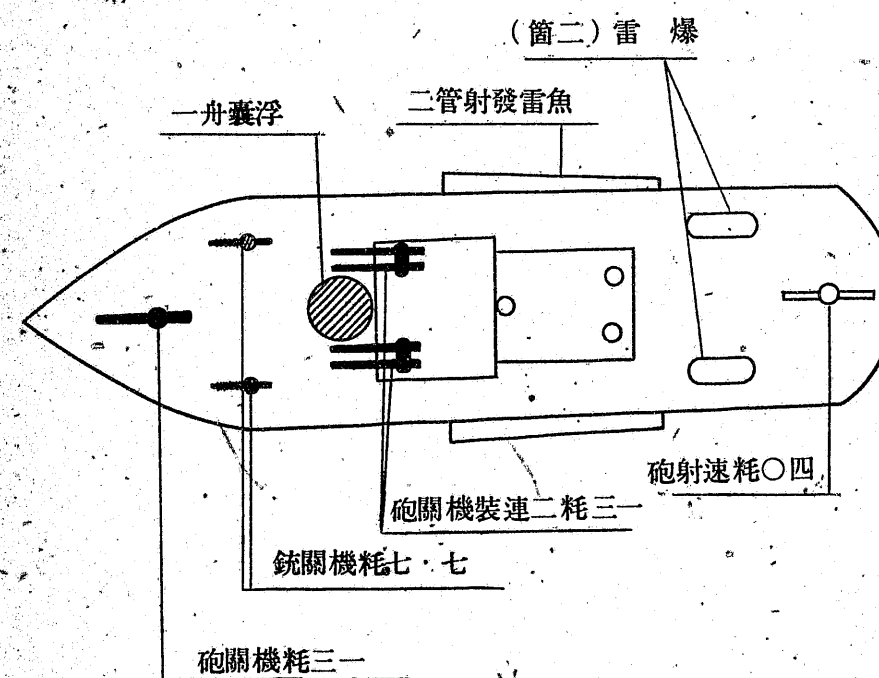
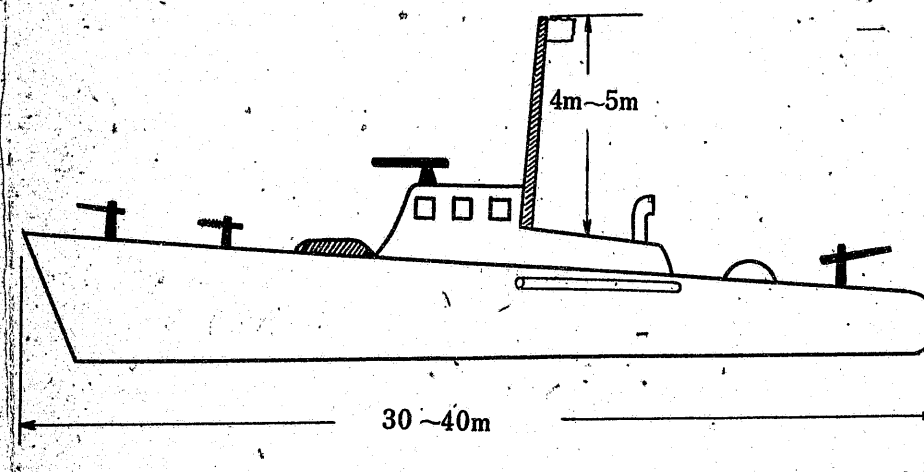
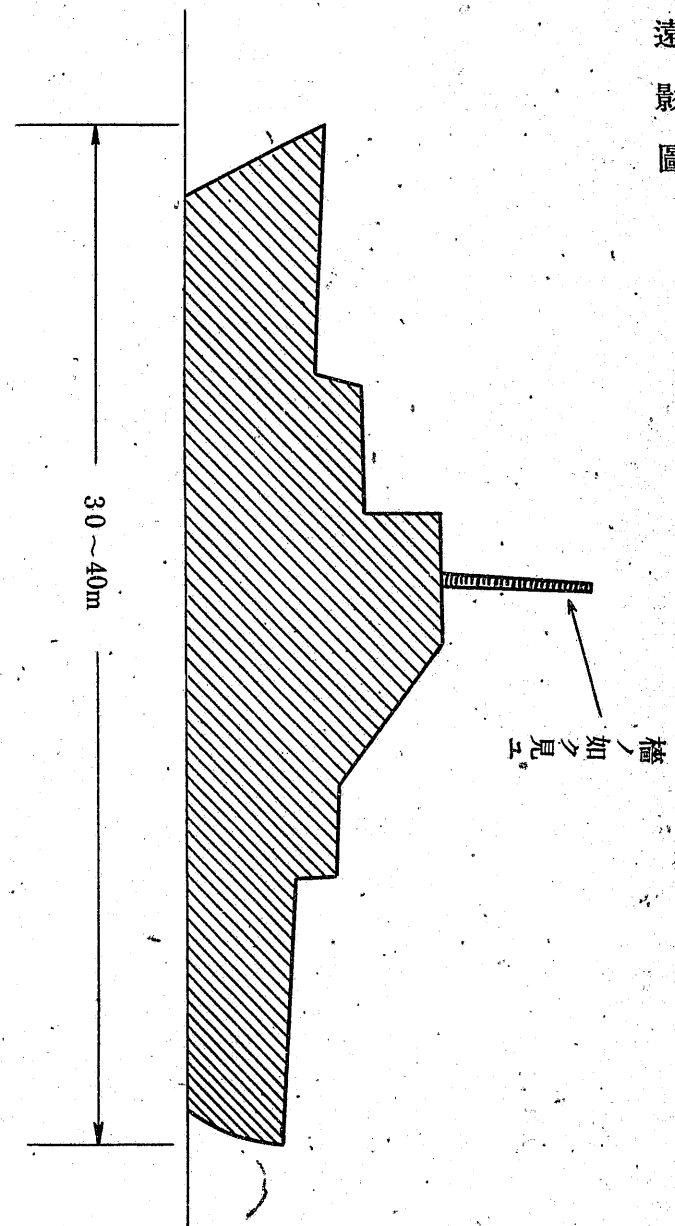
故ニ射撃目標ハ先ヅ先頭ノ魚雷艇ニ選定シ爾後ハ敵ノ移動スルニ從ヒ目標明瞭ニシテ射撃容易ナル艇ヲ求メテ猛射スルヲ有利トス

一八、火砲ノ裝備ナキ艇隊ヲ以テ魚雷艇ト交戦スルハ不利ナリ斯クノ如キ艇隊ハ嚴ニ敵
ヲ警戒シツツ鼠機動ヲ以テ潛行ヲ敢行スルヲ要ス(附圖第十三參照)

大 型 魚 雷 艇 略 圖

附圖第一

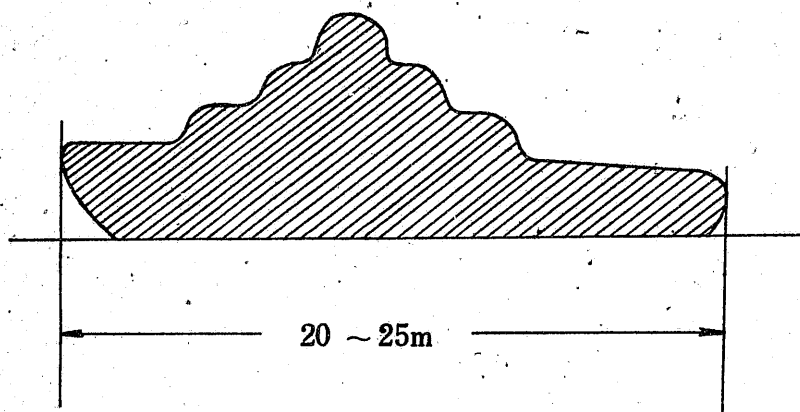
遠影圖



0326

圖 影 遠 艇 雷 魚 型 小 附 圖 第 二

(明 不 細 詳)



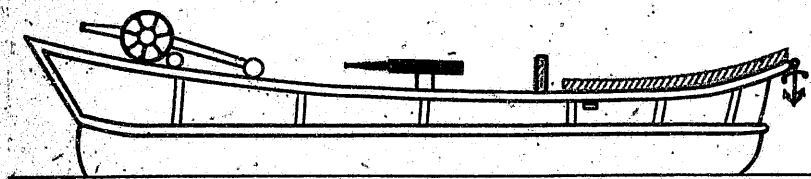
0327

射撃設備要領

三七一
七三
三
一
重
機
關
銃
砲
速
射
砲
機
銃

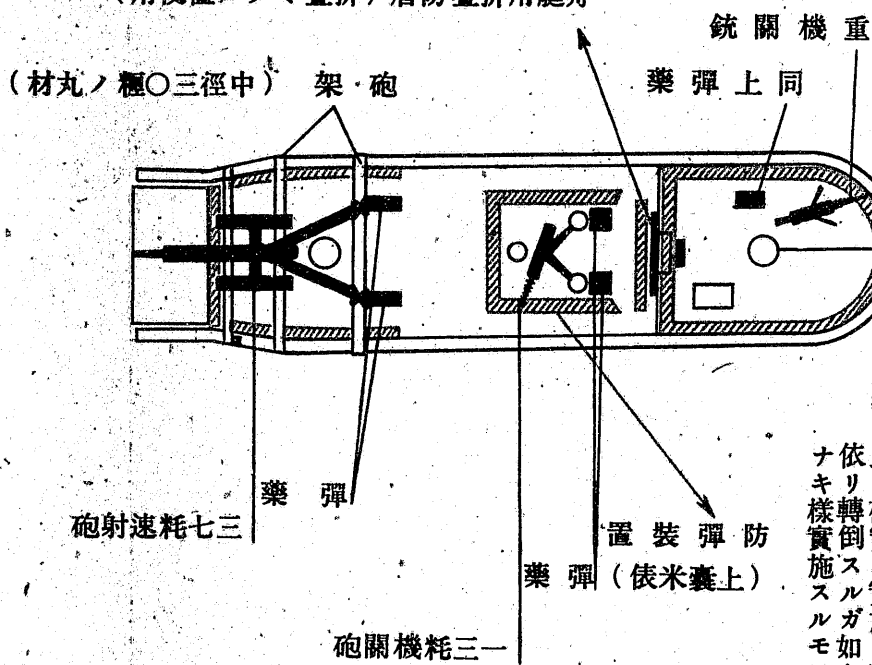
側面圖

附圖第三其ノ一



平面圖

舟艇用折疊防盾 (ミタミル儘使用)



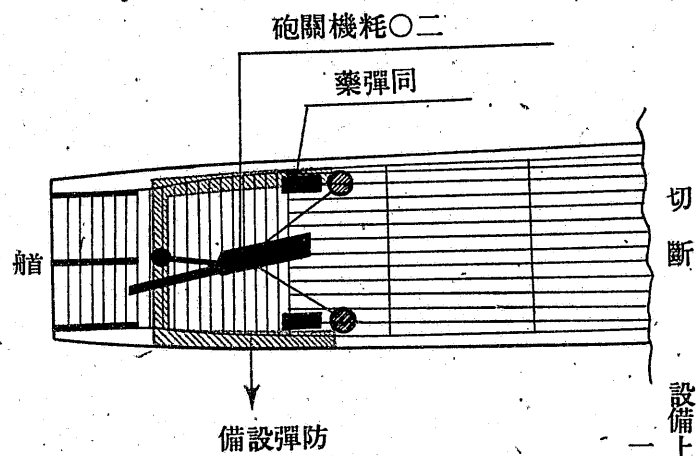
設備上ノ注意

一、速射砲架ハ固縛ヲ確實ニ實施シ射撃ニ依ル緩ミ等生ゼザル如クスルコト
二、機銃脚ノ固定ハ固縛或ハ土囊等ヲ以テ確實ニ實施シ射撃ニ依リ轉倒スルガ如キコトナキ様實施スルモノトス

0328

二〇耗機砲艇射擊設備要領

附圖第三其ノ二



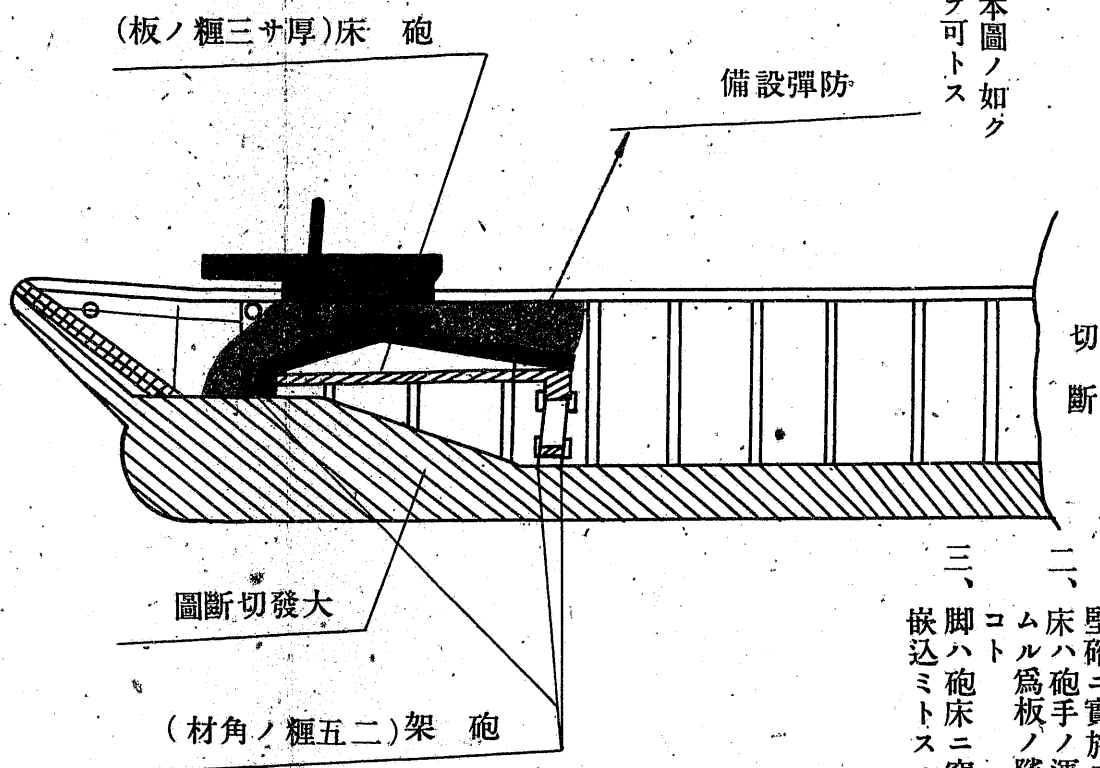
設備上ノ注意
一、脚ノ固定ハ固縛又ハ土囊ニ依リ
確實ニ實施スルコト不安定ナラ
バ射撃時轉倒ス

0329

領要備設撃射砲車戰對耗○四

附圖第三其ノ三

三七耗速射砲ハ本圖ノ如ク
砲床ヲ作製スルヲ可トス



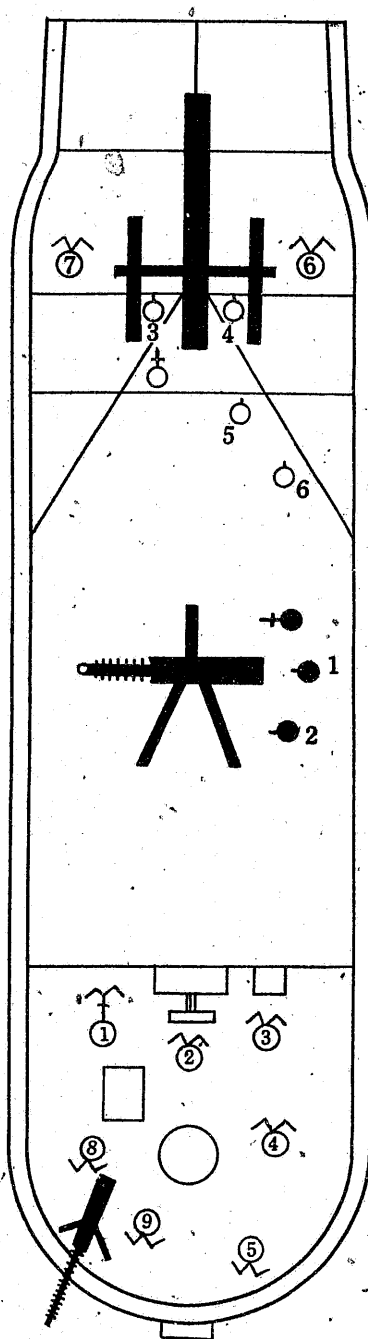
砲床結構上ノ注意

- 一、砲架ノ結構ハ鏝針等ヲ以テ堅確ニ實施スルコト
- 二、床ハ砲手ノ運動ニ便ナラシムル爲板ノ隙間ヲナクスルコト
- 三、脚ハ砲床ニ穿孔シ脚尖部ニ嵌込ミトスルコト

0330

附圖第四其ノ一

艇内艇員砲手配置圖



艇員

○ 艇長 ○ 舵手 ○ 機關手 ○ 機關助手 ○ 艇手 ○ 艙手

射手 (速射砲)

○ 分隊長 ○ 射手 ○ 彈藥手 ○ 彈藥手 ○ 彈藥手 ○ 彈藥手

一三耗機關砲

機關銃

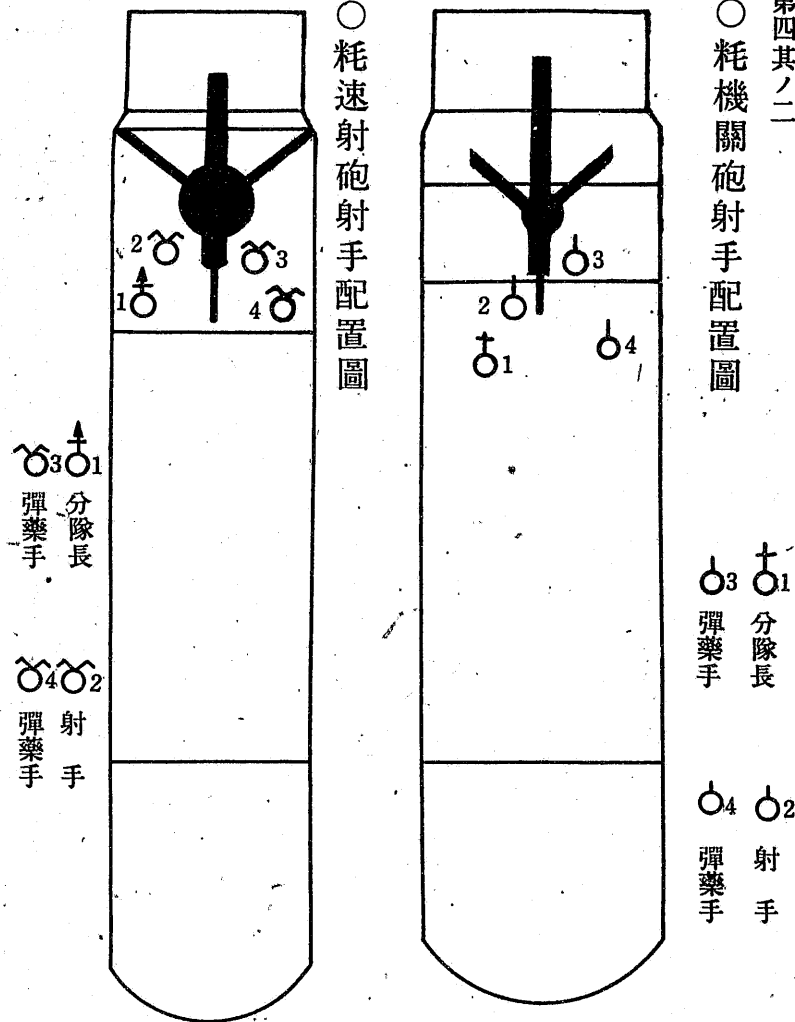
● 分隊長 ● 1 射手 ● 2 彈藥手 ○ 射手 ○ 彈藥手

0331.

附圖第四其ノ二

二〇耗機關砲射手配置圖

四〇耗速射砲射手配置圖



0332

敵魚雷艇陸岸ヨリ來シ我兩舷戰鬭ノ不利ニ陥リシ戦例

第五圖附

狀況

- 一、日時場所 昭和十八年七月二十一日〇三〇「クレチン」岬南方海岸
晴天靜穩月明視界一軒
- 二、天候 「フィッシュ」ヨリ「ラエ」ニ部隊緊急輸送ノ爲「フィッシュ」ニ廻航中
- 三、艇隊任務
- 四、艇隊裝備

區分		裝備
裝甲艇	戰車砲一、旋回MG二	
指揮艇	MA一、MG二	
二番艇	MG二	
三番艇	MG二	

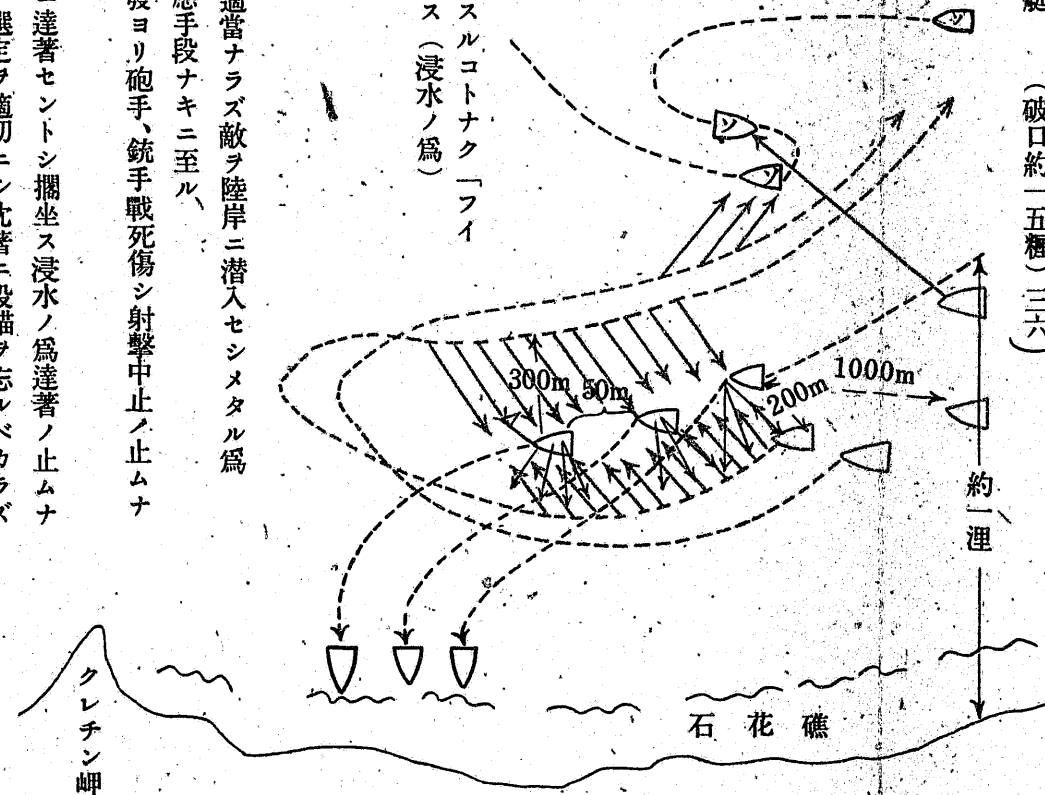
區分		彈數
MG	MA	
二八	一〇	八

- 五、射耗彈
- 六、戰果 敵ニ相當ノ損害ヲ與ヘタルモノノ如シ
- 七、我が損害 戰死六、重傷二、輕傷八、裝甲艇命中彈數箇辛ウジテ「フィッシュ」ニ廻航ス

指揮艇 三番艇 (破口約一五種) 二二六
MAノ彈痕四〇
海岸ニ攔坐後沈没ス

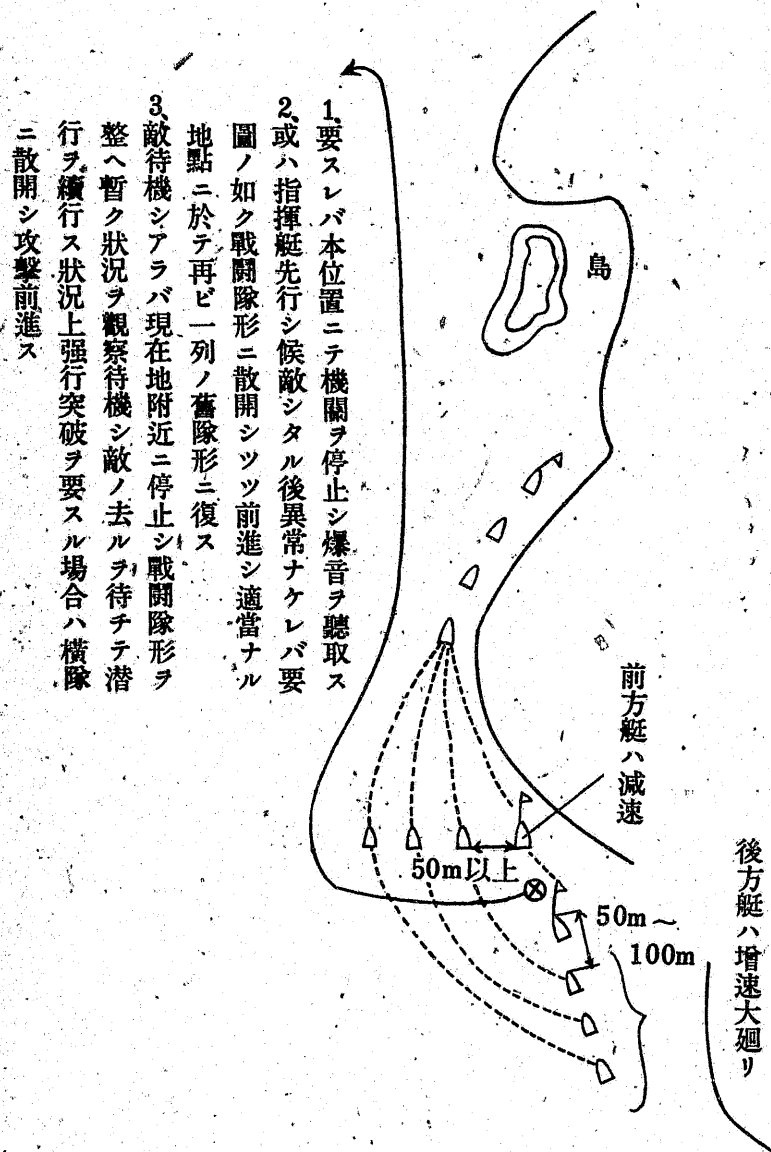
教訓

- 一、航路 月明時ニ遡離岸セシハ適當ナラズ敵ヲ陸岸ニ潜入セシメタル爲艇隊混亂ニ陥リ遂ニ對應手段ナキニ至ル
- 二、MA MG掩體ナカリシ爲初發ヨリ砲手、銃手戰死傷シ射撃中止ノ止ムナキニ至ル
- 三、沈著ヲ害シ徒ラニ海岸ニ達著セントシ攔坐ス浸水ノ爲達著ノ止ムナキ場合ニ於テモ達著點ノ選定ヲ適切ニシ沈著ニ投錨ヲ忘ルベカラズ



0333

形 隊 時 過 通 (部 入 灣 嶼 島) 岬 附 圖 第 六



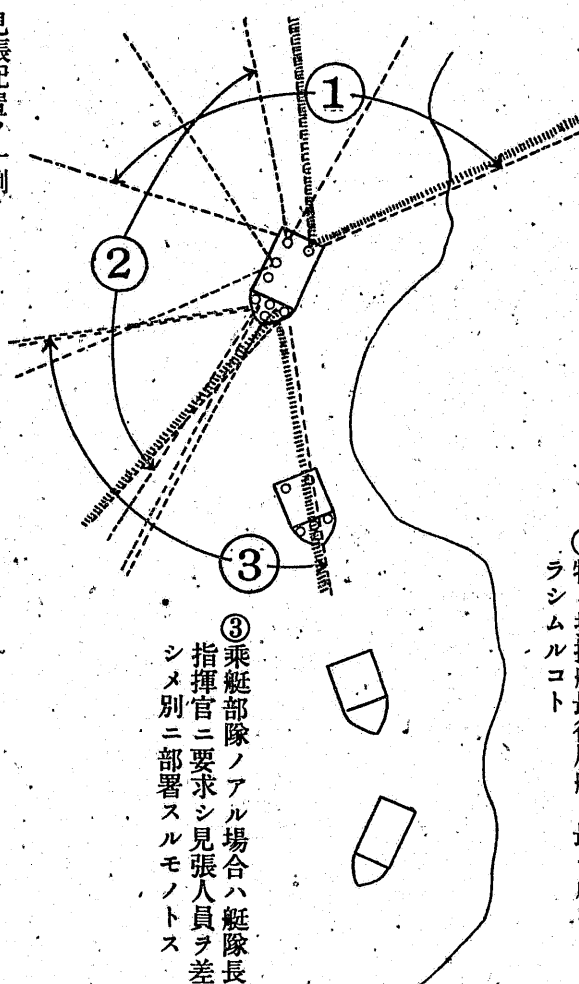
0334

見張配置要圖

附圖第七

見張配置ノ一例

- ① 船手二名ハ主ニ前方一二〇度ノ間（魚雷艇及航路見張）
- ② 砲手二名ヲシテ横方向一八〇度ノ間
- ③ 砲手二名ヲシテ後方一八〇度ノ間
- ④ 砲手及機關手ハ前方ノ航路及魚雷艇ノ見張
- ⑤ 艇長及備砲分隊長ハ全般ノ見張ヲ實施スルモノトス



要點
① 見張ノ間隙ヲ生ゼシメザルコト
② 特ニ指揮艇最後尾艇ヲ最モ嚴ナ
ラシムルコト

③ 乗艇部隊ノアル場合ハ艇隊長部隊
指揮官ニ要求シ見張人員ヲ差出サ
シメ別ニ部署スルモノトス

0335

上海ニ於テ各艇連絡ノ爲メ用火光信号ヲ使用セラルル例戰ノタケ受テ撃攻ノ艇雷魚敵

狀況

一、日時場所

昭和十八年七月二十九日〇〇一〇〇二〇
「ダンビール」海峡「フィンシュ」ヨリ東北約
二〇哩

二、天候

暗夜南西強風波浪高シ

三、艇隊任務

「ニューブリテン」島「ブツシング」ヨリ「フ
インシュ」ヘ軍隊輸送

四、艇隊裝備

區分		裝	備
指揮艇	MA	一	(二〇耗)
二番艇	MA	一	(二〇耗)
三番艇	MG	一	
四番艇	MA	一	(二三耗)
五番艇	MG	一	

五、射耗彈

不明

六、我方損害

戰死九戰傷九
沈没木大、大一
中破大一、(浸水)

教訓

一、發光嚴禁

二、火砲ハ便乗部隊ヲ臨機

裝備シタルモノナリシ爲

機關砲小隊長以下舟疊ノタ

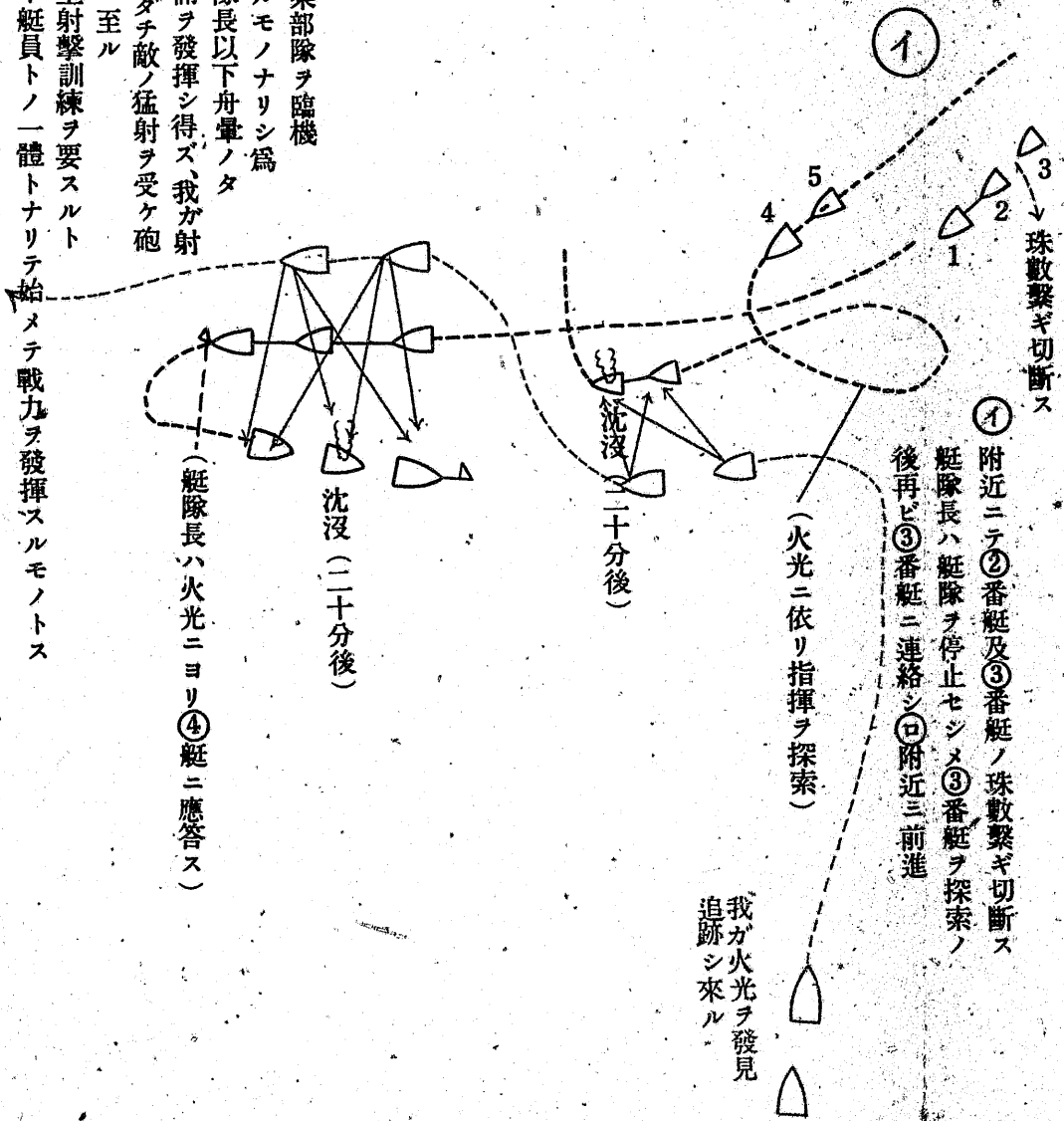
メ射撃伎倆ヲ發揮シ得ズ、我が射

撃開始ニ先ダ敵ノ猛射ヲ受ケ砲

手斃ルルニ至ル

三、砲手ノ艇上射撃訓練ヲ要スルト

共ニ砲手ト艇員トノ一體トナリテ始メテ戰九ヲ發揮スルモノトス



敵ト不意ニ遭遇シ先機ヲ制シテ射撃ヲ開始シ敵ヲ撃沈シタル戦例

附圖第九

狀況

- 一、日時場所
- 二、天候
- 三、艇隊任務
- 四、艇隊裝備

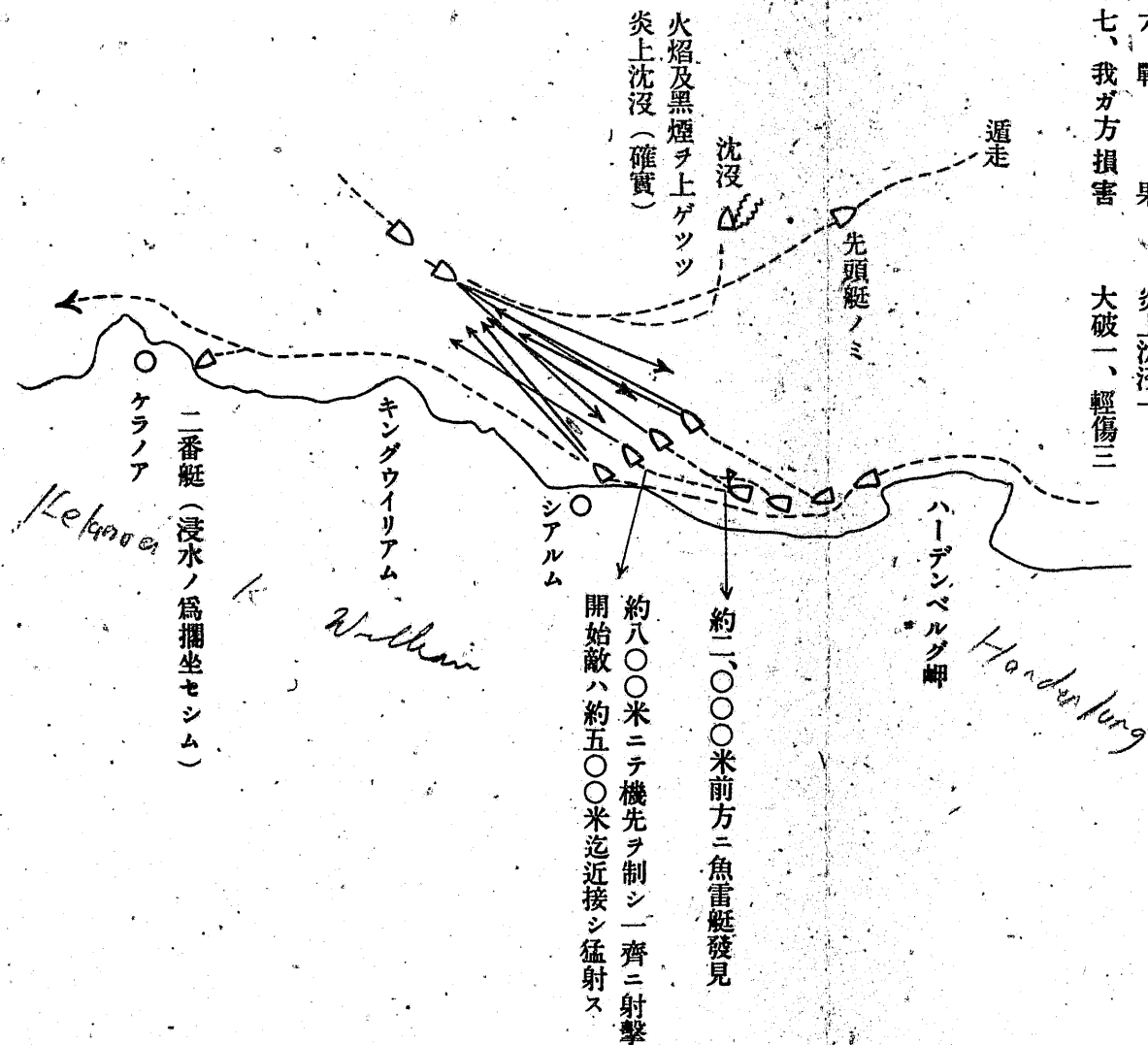
五、射耗、彈

六、戰果
七、我方損害

區分	彈數
MA	一八五發
TA	三七發

艇隊長	區分	裝備
渡邊少尉	指揮艇	MA
三番艇	MA	MG
四番艇	TA	MG

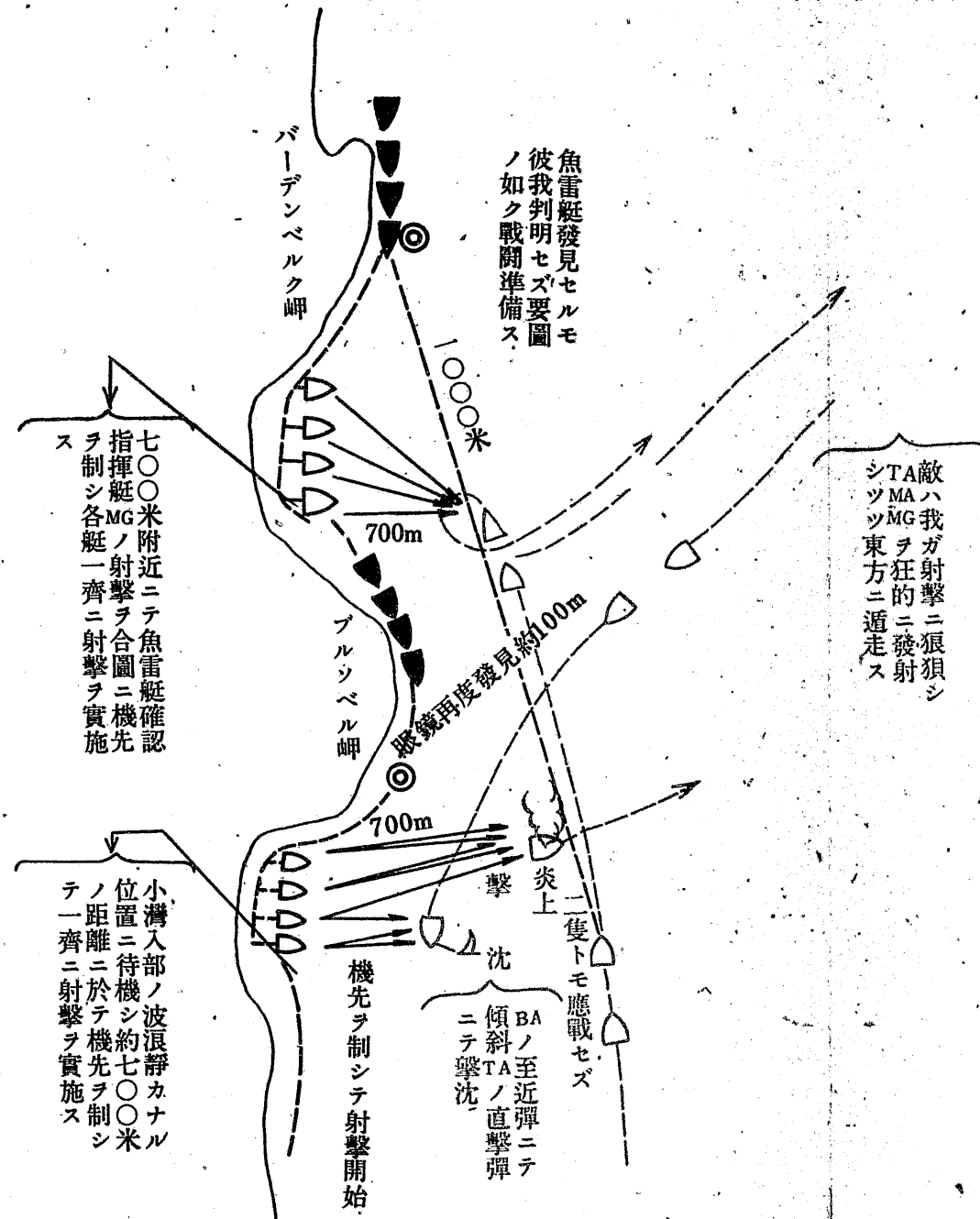
昭和十八年十二月十日〔〇二〇〕
「ハーデンベルグ」岬西北方三軒
十三日一八〇〇時頃月出ズ波浪稍々大ニシテ驟雨アリ
「ワンドカイ」ニ對スル彈藥糧秣ノ強行輸送



0337

附圖第十

例戦シゲ舉ヲ果戦テシ襲奇ヲ敵シ機待テシ用利ヲ形地



狀況

- 一、戦闘日時 昭和十八年九月十日 二二五〇—二三〇〇
- 二、天候 晴 静穏 月齢十一日 二三五五—二四〇五
- 三、艇隊ノ任務 第二十師團ノ一部ヲ「マダン」ヨリ「フィンシュハーフェン」ニ緊急輸送
- 四、我が艇隊ノ装備

艇隊長		区分		装		備	
日笠少尉		指揮艇		BA		MG	
四番艇	三番艇	二番艇	一番艇	TA	BA	BA	MG
—	—	—	—	—	—	—	—

五、射耗彈

MT	TA	BA	区分
四五〇	六〇	二〇	一回
五〇	五〇	二〇	二回
五〇〇	—	—	計

- 六、戦果 撃沈一、炎上一、
- 七、我が方損害 戦死二、重傷一、輕傷一、

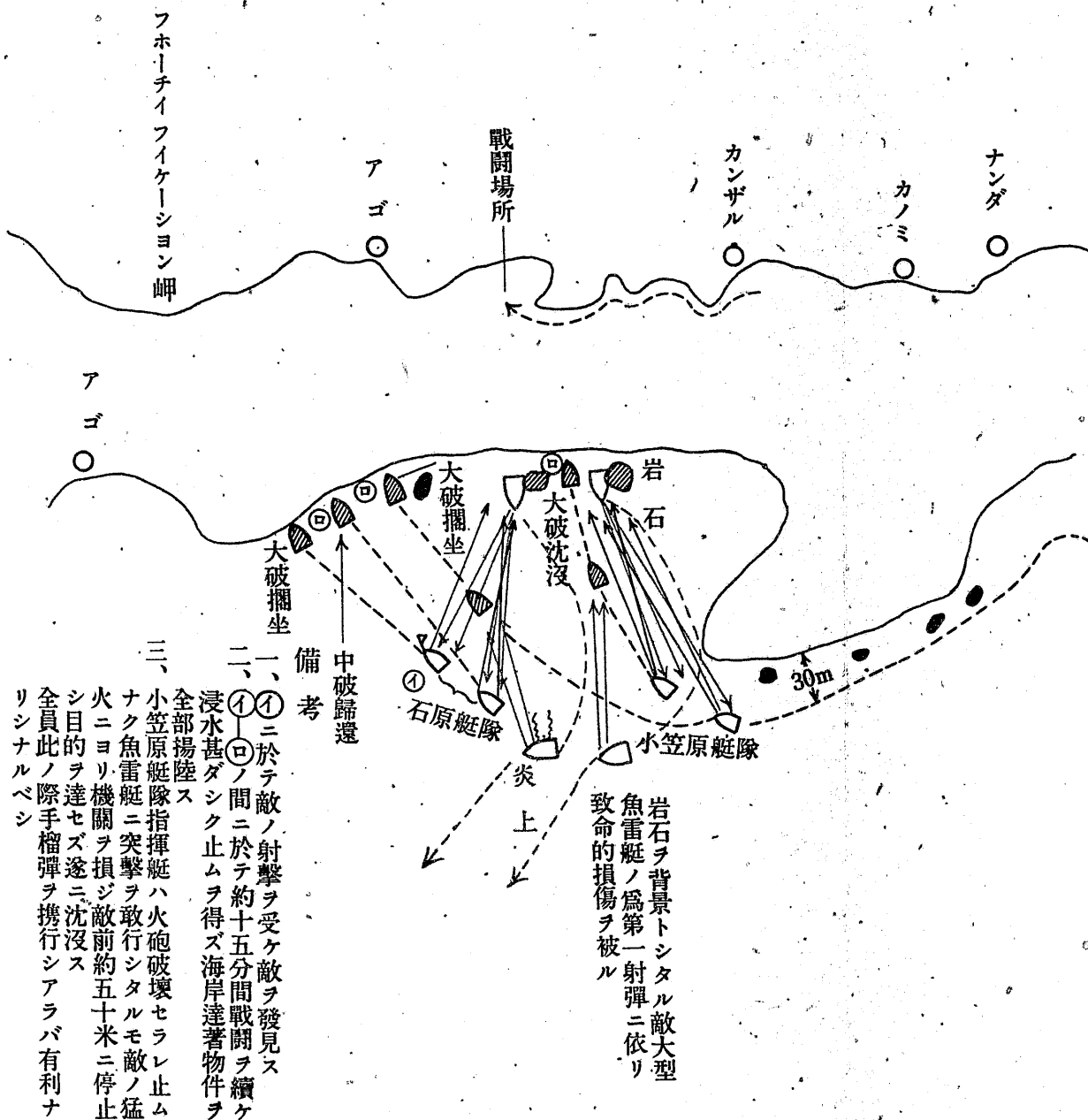
0338

狀況

- 一、日時場所
昭和十八年十月九日二二〇〇—二二二〇
「ニューギニア」島北岸「フホーティフィケーション」
岬北方約二哩ノ地點
靜穩月明
- 二、天候
「シオ」ヨリ「ラコナ」ニ對スル人員、糧秣、彈藥強行輸送
- 三、艇隊任務
- 四、艇隊裝備

艇隊長	區分		裝備
	指揮艇	分艇	
石原少尉	二番艇	三番艇	TA—MG—
小笠原曹長	四番艇	三番艇	MA—MG—

- 五、戰果
炎上一、其ノ他一隻相當損害ヲ與フ
- 六、我が損害
戰死石原中尉以下一五名戰傷三〇名
舟艇大破沈沒三 中破一



- 三、小笠原艇隊指揮艇ハ火砲破壊セラレ止ム
ナク魚雷艇ニ突撃ヲ敢行シタルモ敵ノ猛
火ニヨリ機關ヲ損ジ敵前約五十米ニ停止
シ目的ヲ達セズ遂ニ沈没ス
全員此ノ際手榴彈ヲ携行シアラバ有利ナ
リシナルベシ
- 二、①ニ於テ敵ノ射撃ヲ受ケ敵ヲ發見ス
②ノ間ニ於テ約十五分間戰闘ヲ續ケ
浸水甚ダシク止ムヲ得ズ海岸達著物件ヲ
全部揚陸ス
- 備考
中破歸還
大破擱坐

岩石ヲ背景トシタル敵大型
魚雷艇ノ爲第一射彈ニ依リ
致命的損傷ヲ被ル

0339

敵ニ挾撃セラレタル戦例

附圖第十二

状況

- 一、日時場所 昭和十八年九月八日一九三〇「バンク」岬附近
晴天月明（月齢八） 靜穩視界三浬
- 二、天候 「マロ」―「ラエ」間ノ兵員彈藥糧秣ノ輸送中
- 三、艇隊任務
- 四、艇隊裝備

五、射耗彈

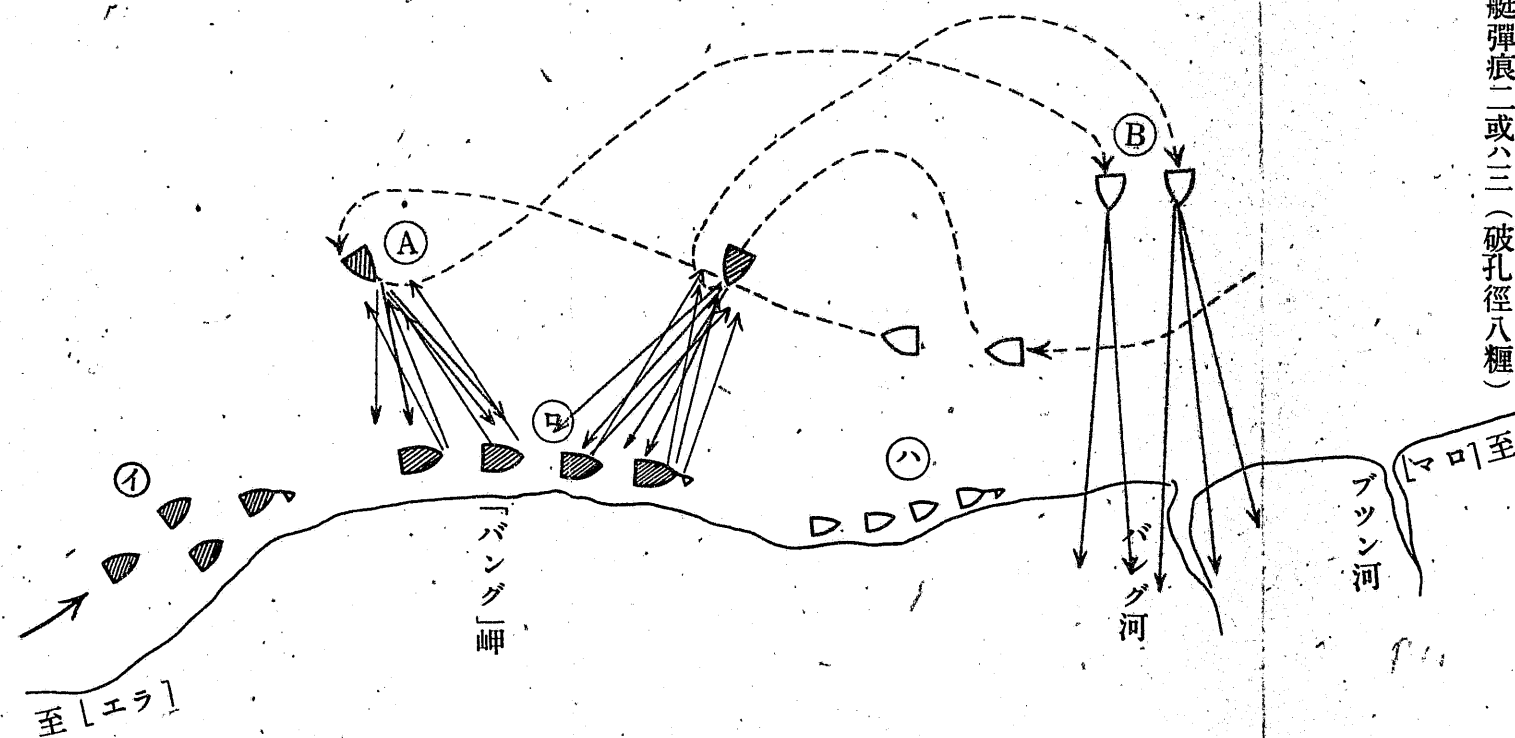
艇別	裝備
指揮艇	MA
二番艇	MG
三番艇	MG
四番艇	MG

區分	彈數
HMA	八五
MG	九四〇發

- 六、戰果 機關砲命中彈多數ヲ與ヘタルモノノ如シ
- 七、我が損害 輕傷三、各艇彈痕二或ハ三（破孔徑八浬）

教訓

艇隊ノ航行隊形ハ戰闘ニ便ナル如ク一列トシ接岸航行ヲトリシ爲兩舷戰闘ニ陷ルヲ避ケ得テ各艇直チニ應戦シ損害ヲ小ナラシメタルモノト認ム



0340

例戦シケ受ヲ撃打的滅殲爲シリカナ備装ノ砲火ニ我

附圖第十三

狀況

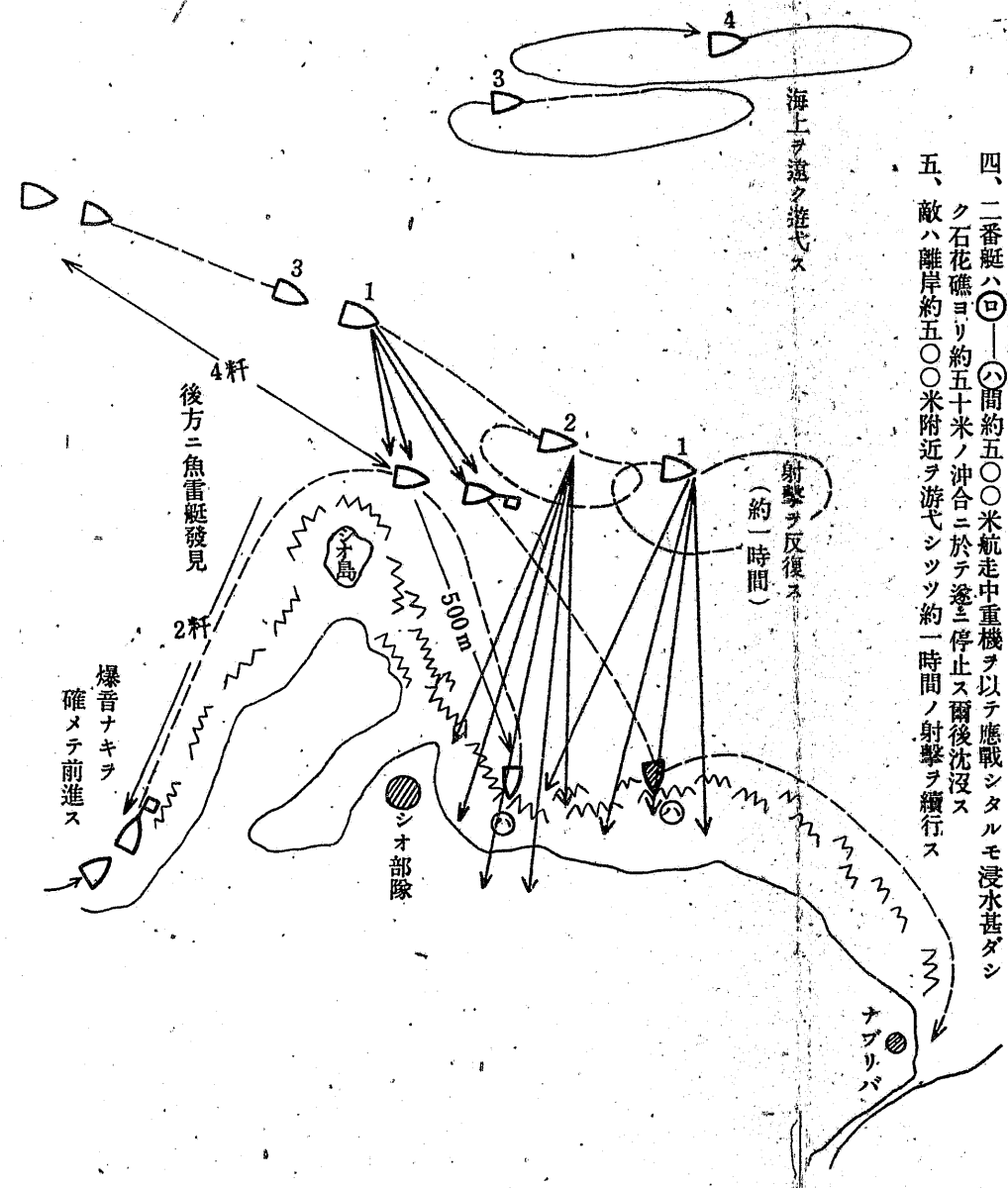
- 一、日時場所 昭和十八年十月十五日 〇〇三〇「シオ」島沖
- 二、天候 靜穩月明（白晝ノ如シ月齡十六）
- 三、艇隊任務 「ガリ」ヨリ「ナブリバ」ヘ兵力輸送
- 四、舟艇裝備

五、射耗彈

區分	裝備	乘艇部隊
指揮艇	小銃六〇	六〇
二番艇	MG一	六〇
重機	四〇〇	
小銃	一四三	

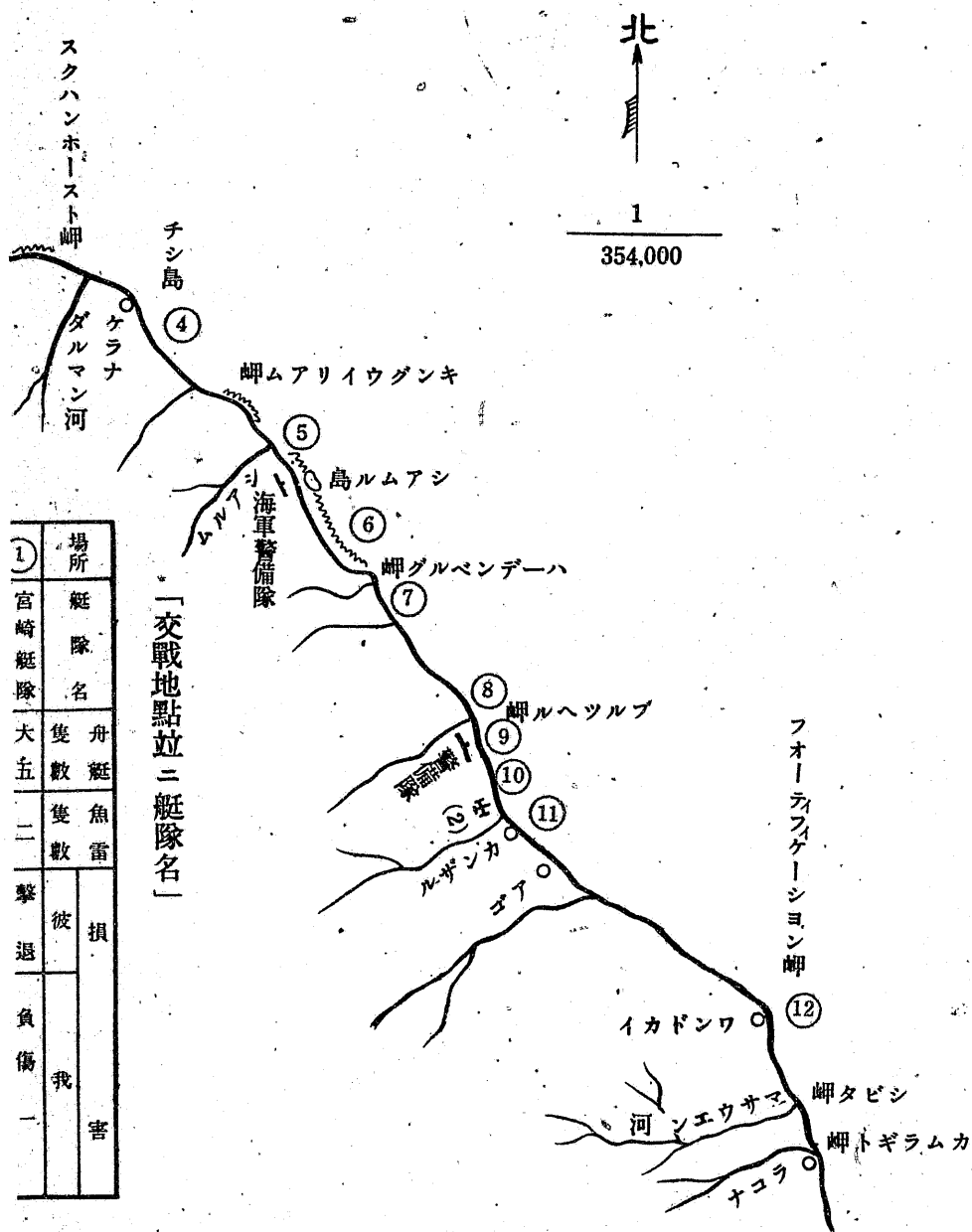
六、我が損害 戦死將校二下士官以下三三、戦傷三七、大發沈没一、大破一

- 七、戦關概要
 - 一、①ニ於テ魚雷艇ノ機關爆音ヲ聴取スル爲約二〇分間待機セシモ爆音ナキ爲一五〇三〇〇出發ス
 - 二、②ニ於テ後方約北西四軒附近ヲ急進スル魚雷艇ヲ發見艇隊長ハ火器ノ裝備ナキ爲直ニ各艇全速ニテ接岸退避ヲ計リシモ忽チ敵ノ急進ヲ受ケ約一軒後方ヨリ射撃ヲ受ク我モ亦重機一及小銃ヲ以テ應戰シツツ③ニ向ヒ突進ス
 - 三、指揮艇ハ全速ヲ以テ「ナブリバ」河口ニ退避セントシタルモ敵ノ猛火ヲ浴ビ逐次船體ニ二十數箇ノ彈痕ヲ生ジ約一〇分ノ後機關燃料油槽ヲ貫通機關停止ス艇隊長ハ止ムナク石花礁ニ投錨達著ヲ實施シ乘艇部隊ヲ上陸セシメタル後應急修理敢行ノ上「ナブリバ」ニ強行退避ス
 - 四、二番艇ハ④間約五〇〇米航走中重機ヲ以テ應戰シタルモ浸水甚ダシク石花礁ヨリ約五十米ノ沖合ニ於テ遂ニ停止ス爾後沈没ス
 - 五、敵ハ離岸約五〇〇米附近ヲ游弋シツツ約一時間ノ射撃ヲ續行ス



般全點地闘戦艇雷魚對

(間送輸行強降以月八)



0342